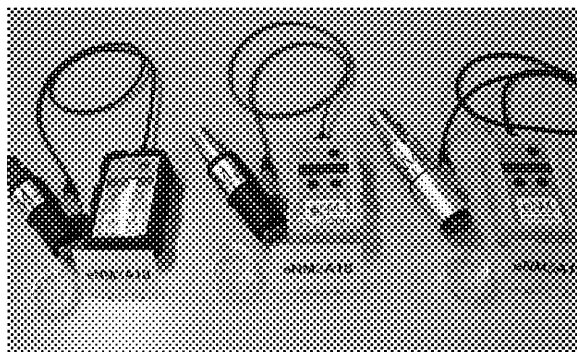


反発硬さ試験機 対象拡充



山本科学など 輸送機向け拡販

【千葉】山本科学工具研究社（千葉県船橋市、山本卓社長）は、昌永工機（同市）、エム・シー・エル（千葉県鎌ケ谷市）と共同で、物質・材料研究機構との研究成果を基に微小球反発試験機のラインアップを拡充した。従来は試料の硬さを測るために直径3ミリの球をおもりを使用していたが、同2ミリの球、同5ミリの球をおもりを用いた試験機を開発した。小さいおもりは小さく薄い試料に、大きいおもりは表面の粗い試料や凹凸がある試料に向いており、幅広い試料に対応できるようにした。

消費税抜きの参考価 機メーカーや販売代理店を通じ、輸送機械関

る反発係数から硬さを算出する。おもりを他

か、樹脂や食品などにも使用できる。

連や素材メーカーなどでの採用を目指す。

の反発硬さ試験機の数から数百分の1に軽量化することで衝突時の振動を抑制し、小さく軽い試料でも誤差が出づら

2022年に経済産業省の「新市場創造型標準化制度」に採択され、日本産業規格（JIS）化を進めている。試験機の原理や性能、試験方法などを標準化することで試験機

同試験機は内蔵したおもりを試料の表面に衝突させ、衝突前後

ハンディー型で現場に持ち運び、多方向から試料に押し当てて試験できる。複雑な設定が不要で、作業者の経験を問わず一定の精度で試験可能。金属のほ

の性能を客観的に評価可能になる。他の硬さ試験方法との比較もしやすい。標準化で試験機の信頼性を高め、普及を進める考

速度比である、凹凸の幅広い試料の硬さを測定で

小さくて薄いもの、凹凸のあるものなど幅広い試料の硬さを測定で

で試験可能。金属のほ

きる

え。